



## 今日のキーワード コロナショックと中央銀行の『バランスシート』拡大

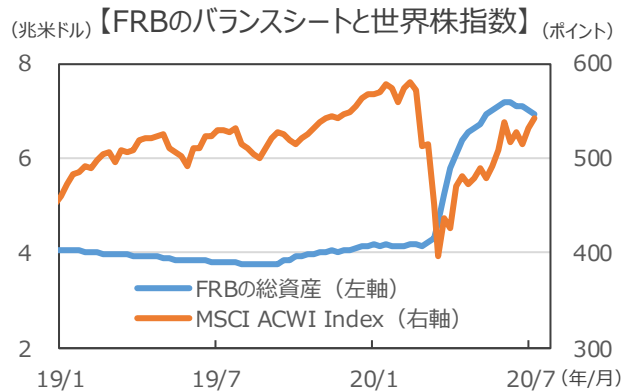
新型コロナウイルスの感染拡大は、世界経済を混乱させ、金融市場にパニックをもたらしました。感染防止のため実施されたロックダウン（都市封鎖）の影響で、2020年の世界経済は、戦後最大のマイナス成長が見込まれています。しかし、各国の積極的な財政政策と過去に例のない金融政策により株式市場は急速に持ち直しました。特に、中央銀行の量的緩和に伴う『バランスシート』拡大は株式市場の支えになったとみられます。

### ポイント1 中銀は量的緩和を再開し、『バランスシート』を拡大

- 今年に入り、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、各国でロックダウンが実施され、世界経済は急縮小することが避けられなくなりました。コロナショックを和らげるため、各国の財政・金融当局は迅速に行動に移し、極めて積極的な政策を講じました。
- 中でも米連邦準備制度理事会（FRB）は3月に、量的緩和とゼロ金利の復活を決めたほか、社債やコマーシャルペーパーを購入する異例の資金供給策を発表し、迅速に危機対応モードに切り替えました。量的緩和再開に伴い、FRBの『バランスシート』はわずか3カ月で4.3兆ドルから7.1兆ドルに急拡大しました。他の中央銀行も追随し、欧州中央銀行（ECB）は量的緩和を再開、日銀も3月以降『バランスシート』拡大ペースを上げました。さらに、新興国の中央銀行が量的緩和に踏み切る事例も増えてきました。

### ポイント2 量的緩和は市場をサポート

- 各国の積極的な財政政策や金融緩和策を受けて、3月下旬以降、世界の株式相場は急激かつ大幅な反発を示現しました。全世界株式の代表的な指数（MSCI ACWI）をみると、3月23日の安値から7月10日の戻り高値まで41%上昇し、コロナショック前の2月12日につけた史上最高値まであと7%に迫っています。
- 中央銀行の量的緩和によって、長期金利が低下したほか、リスク性資産への資金流入期待が高まったことが大きいと思われます。



（注）データは2019年1月2日～2020年7月8日。週次ベース。  
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### 今後の展開 中銀の『バランスシート』拡大が市場心理を支える

- 国際通貨基金（IMF）によれば、2020年の世界の経済成長率は▲4.9%が予想されるなど、世界経済は新型コロナウイルスの影響で停滞が続き、以前の水準に戻るのに数年かかるという見方が一般的です。それでも株式市場で強気な見方が保たれているのは、中央銀行への信頼が厚いためだと考えられます。低成長が見込まれる中、日米欧の主要中央銀行を中心に異例の金融緩和策が長期化することが予想され、量的緩和によって過去にないペースで『バランスシート』が拡大すると期待が市場心理を支えそうです。

ここも  
チェック！ 2020年7月 8日 吉川レポート：分岐点か踊り場か  
2020年6月24日 ハイテク株主導で高値更新の米国株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。